

共催：金沢大学理工学域能登海洋水産センター

共催：金沢大学環日本海域環境研究センター

能登海洋水産センターと環日本海域環境研究センターとの共同研究キックオフミーティング
持続可能な社会環境の達成に向けた海洋研究

— 九十九湾の海洋構造の解析と 水産業への展開 —

日時：11月26日（木）10:00～11:40

場所：金沢大学角間キャンパス 自然科学本館 ワークショップ1

※参加者多数の場合、別室でオンライン配信を行います。

参加無料・申込不要

基調講演

10:15～10:55

「海洋における基礎生産力のモニタリングは
漁業に活かせるか：サロマ湖を例として」

東京農業大学 生物産業学部 自然資源経営学科 塩本 明弘 教授

講演

10:55～11:15

「能登の里山里海を活かした持続可能な水産技術の開発
— 臨海実験施設と連携した能登海洋水産センターの研究 —

金沢大学 理工研究域 能登海洋水産センター 松原 創 教授

11:15～11:35

「能登海洋水産センターと連携した水産に関する研究」
金沢大学 環日本海域環境研究センター 鈴木 信雄 教授



※新型コロナウイルス対策を講じて講演を行います。
詳細は下記HPよりご確認をお願いいたします。



お問い合わせ 金沢大学環日本海域環境研究センター
TEL 076 (234) 6961 URL <http://www.ki-net.kanazawa-u.ac.jp/>

プログラム

- 10:00-10:05 開会挨拶 和田隆志 理事
- 10:05-10:15 共同研究の概要説明 環日本海域環境研究センター長 長尾誠也 教授
- 10:15-10:55 基調講演
「海洋における基礎生産力のモニタリングは漁業に活かせるか」
：サロマ湖を例として
東京農業大学 塩本明弘 教授
- 10:55-11:15 「能登の里山里海を活かした持続可能な水産技術の開発
－臨海実験施設と連携した能登海洋水産センターの研究－」
能登海洋水産センター 松原創 教授
- 11:15-11:35 「能登海洋水産センターと連携した水産に関する研究」
臨海実験施設 鈴木信雄 教授
- 11:35-11:40 閉会挨拶 松原創 教授

能登海洋水産センター



2019年、日本百景に選ばれた石川県能登町九十九湾を臨む越坂地区に、金沢大学理工学域生命理工学類海洋生物資源コースの拠点として、金沢大学理工学域能登海洋水産センターが発足した。能登町により整備された敷地面積6,822㎡の本センターは、4350㎡（床面積1044㎡）3階建の実験棟と5193㎡（床面積1241㎡）3階建の宿泊棟からなる。対岸の金沢大学環日本海域センター臨海実験施設では海洋水産生物の環境に対する影響を主として調査しているが、本センターは水産生物に焦点を当て、それらの増養殖研究を行う。能登町や石川県の特性を生かした水棲生物の生殖・発生・成長に関する基礎・応用研究を世界に発信、オーガニック養殖や生殖工学を駆使した次世代養殖技術の開発などを通じて、地域ひいては国際社会に貢献できる人材の育成を目指す。

金沢大学理工学域能登海洋水産センター
〒927-0552 石川県鳳珠郡能登町字越坂11-4-1

環日本海域環境研究センター 臨海実験施設



能登半島の西岸を外浦、東岸（富山湾側）を内浦と呼ぶ。その内浦の中央やや北寄りに九十九湾がある。九十九湾の入り江の一つ、通称「船隠し」に当臨海実験施設が建てられている。九十九湾は湾口の幅約200m、最大奥行き1,200m、水深25mの典型的な溺れ谷で荒天でも湾内に波浪を見ない。実験施設周辺は国定公園に、湾口は海中公園に指定されている。九十九湾を中心に南北50kmに渡る海岸線は、砂泥・礫・岩礁地帯と変化に富んでいる。

生物相は日本海を北上する対馬暖流の支流と富山湾の固有冷水域の影響を受け、南方系と北方系の両種が見られる。また、当施設の前の水深10mには、口や肛門、消化管が無い「マシコヒゲムシ」（有鬚動物門より環形動物門へ変更）が生息する。磯採集に適した数カ所のポイントと、ドレッジに適した底質が異なるポイントがあり、臨海実習に適した環境といえる。

環日本海域環境研究センター 臨海実験施設
〒927-0553 鳳珠郡能登町小木ム4-1